

第四回松山市文化施設の在り方検討会(概要)

- 開催日時:令和 8 年 5 月 28 日(木)13:30~15:00
- 開催場所:KH三番町プレイス 3階 第1会議室
- 出席者:土居英雄委員、本田元広委員、郡司島宏美委員、池田慈委員、丹下正英委員、
羽鳥剛史委員、淡野寧彦委員、前田眞委員、森隆一郎委員
黒川泰雅オブザーバー、家串正治オブザーバー、中矢斉オブザーバー
- 調査業務委託受託業者:株式会社シアターワークショップ
- 議題等:○代替施設の整備候補地について
○市民会館閉館後の支援策(案)について
○委託調査の進捗状況について

■会議概要

1 開会

2 代替施設の整備候補地について

○資料1に基づき事務局から説明。

(説明概要)

- ・サイボウズと市の共同会見で、JR松山駅西側の車両基地跡地でサイボウズと連携したアリーナ整備は難しいと発表した。
- ・その後、文化団体関係者などと意見交換し、「車両基地跡地を代替施設の整備候補地に検討してほしい」という声を多く頂いた。
- ・候補で検討していた「中央公園(運動広場)」と「コミセン西側」に、「車両基地跡地」を加え、「交通利便性」「敷地面積や周辺環境」「整備コスト」「まちづくり方針との整合性」の4つの視点で比較した。

○説明を受け、全ての委員が「JR松山駅車両基地跡地」が妥当との意見だった。

その後、意見が交わされた。

(まとめ概要)

「車両基地跡地」となった場合も、以下の3点を考慮してほしい。

- ① H27の車両基地跡地利用の基本構想をベースに、現在の法令などを反映させ、単なる箱ものでなく、施設の文化的意義を示す。
- ② 高架を通過する列車の騒音や振動の影響と解決策を検証し、建物の設計などを工夫する。
- ③ 駅全体のまちづくりや市のビジョンを考慮し整備を進める。

○詳細は次のとおり。

委 員 整備コストと立地条件を比べ、「車両基地跡地」で進めてもらいたい。

建設には箱物としてだけでなく、文化的意義も考えてほしい。

- 委員 高架が近く、列車の騒音や振動の影響がないか調べる必要がある。
- 事務局 整備地に決まれば改めて確認する。駅側ではなく、新施設側での対応になると考える。
- 委員 JR との連携や、専門家に依頼してほしい。
- 委員 平成27年に「車両基地跡地利用」の基本構想が策定された。整備地に決まれば、この構想を生かして進めてほしい。その場合、工程は短くなるのか。
- 事務局 少しでも早めるようにし、スケジュールを提示したい。
- 委員 基本構想には、「音楽、美術、文学、演劇、舞踊など文化芸術がさかんな松山市のさらなる活性化と観光推進につながっていくよう…」とある。周辺の敷地も含めトータルプランで考えてほしい。
- 事務局 策定から10年以上経過し、文化芸術に関する法令や計画の更新もある。整備地に決まった際は、こうした変化や委託の調査結果を反映させて補完する想定。車両基地跡地全体の動きでは、3月に「松山駅周辺のまちづくりプラン」をまとめた。『広域交通拠点と広域交流拠点が一体となったまちづくり』、『エリア全体が楽しさにぎわいに満ち、安全・安心で快適なまちづくり』、『国内外から人を集め、中央商店街や道後はもとより、東予や南予、四国各県への送客も担うまちづくり』がコンセプト。整備地に決まれば、都市整備部と連携しながら、駅周辺のまちづくりの中で検討を進めたい。
- 委員 「まちづくり方針との整合性」の観点では、「コミセン西側」も良いが、既存施設を解体するため、コミセンの代替機能の検討が必要になる。問題が複雑化する可能性もあるため、やはり車両基地跡地が良いと考える。

3 市民会館閉館後の支援策(案)について

○資料2に基づいて事務局から説明。次の支援策を検討中。

- ①代わりになる施設の周知
- ②使用目的別の役割分担
- ③市有施設の機能強化
- ④アウトリーチ事業
- ⑤まちなかパフォーマンス事業
- ⑥中間支援組織(アーツカウンシル)の設置
- ⑦人材育成事業

○委員から、「この機会をポジティブに捉え、文化の種をまく創造的な取組をしてほしい」などさまざまな意見があった。

(まとめ概要)

- 文化団体の活動を支える「中間支援組織」を早急に立ち上げるよう期待する。
- 空白期間に大規模なコンクールなどの代替会場をどう確保するかや、代替施設の予約の競争の激化が懸念されるため、既存施設の改修などハード整備や代替施設のリスト

の公表のほか、市で代替施設を借上げや、県・周辺市町と広域で連携など、長期的で細やかな支援をしてほしい。

○詳細は次のとおり。

委員 代替施設の予約競争が激しくなる。代替施設を紹介して終わりではなく、場所の確保や資金的なフォローを、ある程度の期間してほしい。

委員 施設の基本情報とあわせて、「階段が多い」や「控室がない」など、施設の特殊事情も紹介してほしい。また、市民会館のピアノを別の施設などで活用するほか、異なるジャンルで共同してイベントを開催やアウトリーチ事業など、空白期間に文化の種をまき、育てるのが重要と考える。

委員 子どもたちのコンクールや大会は、例年の時期に同規模の代替会場を確保できるか懸念する。ハード面の代替が難しいのであれば、人材育成や中間支援などソフト面の支援をしっかりと実施してほしい。

委員 学校関係の大規模な大会などの代替会場の確保は、県内や近隣市町など広域で考えてほしい。また、シアターねこが担っていた「演劇を作り込む場」は、現市民会館にないため、既存施設の改修やソフト事業の充実で支援してほしい。

委員 代替会場の確保は移動コストもサポートするなど、実効性があると良い。アウトリーチは支援策ではなく、通常の実施として行うべき。また、屋外型のイベントでは、場所の使用許可をサポートするなど、交渉や情報提供、人材育成を行う中間支援組織を早めに立ち上げてほしい。

委員 アウトリーチは劇場の機能とあわせて検討が必要。新しい拠点を作るのであれば、施設外に行くのはもちろん、外から劇場に来てもらう相互の関係で成り立つ。それらを総合するアーツカウンスルがあると良い。最近は新しく劇場を整備する時に、劇場内にアーツカウンスル機能を持たせることもある。そのほか、周辺市町が共同で、機能を集約した施設を建設する事例もある。助成金や市が代替会場を借り上げる、仮設でプレハブや テントを作るなども考えられる。

委員 支援策は役割分担ではなく、中間支援組織を早く立ち上げ、中心になって動くのが良い。

委員 中間支援組織は一部の担当で進めると市民の関心が失われる。アートマネジメント人材を育成して何らかの形で関わってもらう、演者を支える重要な立場と意識してもらうなど市民を巻き込めば、多くの人が関心を持ち、新たな人材育成に繋がる。

委員 ハード整備や代替会場の確保など、団体に寄り添った支援策を考えてほしい。中間支援組織は閉館前から立ち上げ、新施設ができた後も運用される、長期的な支援拠点にしてほしい。

4 委託調査の進捗状況について

○資料3に基づき事務局から市民や文化団体へのアンケート、ヒアリングの進捗を報告。
委員から次の意見があった。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">● 結果のグラフは、選択肢の順番など示し方を工夫し、わかりやすさにも留意してほしい。● 市民アンケートの回答率は比較的高い。関心の高さが伺える。● アンケートのすべての結果を取りまとめ、今後にかしてほしい。 |
| 5 その他 |
| ○次回の検討会開催の案内。 |
| 6 閉会 |